

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	男女共同参画推進室	
施策	7	人権尊重・男女共同参画の推進	評価 責任者	佐藤 篤	内線 2110
小施策	7-2	男女共同参画の推進	評価 シート 作成者	高橋 信朗	内線 2160

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
男女共同参画意識の高揚と活動支援に関しては、企業、地域など、社会全般において指導的地位における女性の登用が少ないことから、庁内の審議会などにおける女性委員就任率も目標を下回っており、女性の参画機会の更なる拡大が望まれている。 また、配偶者などからの暴力(DV:ドメスティック・バイオレンス)は、基本的人権の重大な侵害であり、その防止や被害者保護のためさまざまな法整備がなされてきたが、相談件数は増加傾向にある。DV防止のための啓発や被害者支援の充実を一層推進する必要がある。	性別などにかかわらず、お互いを理解しながら個人を尊重し合う男女共同参画社会を実現するために、意識啓発や支援、女性の参画機会の拡大を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	社会のあらゆる分野で男女共同参画意識を持ち、性別に関らず個性と能力を十分に発揮できる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
指標	単 位	目指す方向	成果点	問題点	成果の要因分析	
指標① 男女共同参画サポーター認定者数	人	→	・男女共同参画サポーター認定者は増加している。	・男女共同参画サポーターの活躍する場が少ない。	・県が、主催する「男女共同参画サポーター養成講座」を市民が受講(男女共同参画の基礎知識を習得)することにより、男女共同参画の意識の向上が図られている。講座修了者は、男女共同参画サポーターとして、県知事認定される。  ・サポーターや男女共同参画推進の活動をしている団体・グループとの情報共有が不足している。	
当初値 (H25)	6		R1目標値	6	R6目標値	6
指標② DV相談新規人数	人	→	・DV相談新規人数は減少傾向にあるが、相談件数は高めに推移している。	・DV相談内容が複雑化している。	・DV防止週間に街頭キャンペーンを継続して実施しており、多くの市民への意識啓発となり、相談につながっている。  ・児童虐待や精神障害など複数の困難を抱えている世帯が増加している。	
当初値 (H25)	149		R1目標値	150	R6目標値	150
指標③ 女性の起業・就業支援事業を受講した人のうち就業・起業した人数	人	↗	・女性の起業・就業支援事業を受講した人のうち、就業・起業した人数は着実に増加している。	・講座の夜間開催や個人のスキルの状況に応じたレベル毎の講座開催など要望の多様化への対応。	・女性の経済的自立支援(就職・再就職・起業)のための女性センター「起業応援ルーム芽でるネット」において、起業や就職支援に関する講座、相談、パソコン指導等を受けることにより、経済的自立につながった。  ・土日も含め昼間働いている者(再就職や転職希望・学び直し)が受講を希望するため、夜間開催を希望する者が多い。 ・受講者のレベルに差がある。	
当初値 (H25)	5		R1目標値	25	R6目標値	50

## 今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ サポーターや男女共同参画推進の活動をしている団体との交流を密にし、今後の事業での活動の場を検討していく。</li> <li>★ サポーターに男女共同参画に関するイベントや講座等の情報を提供することにより、サポーターの活動促進を図る。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 「DV被害者窓口対応の手引き」を各窓口担当部署に配付し、職員研修及び担当者会議を行うことにより、適切な被害者支援と庁内連携体制の構築を図る。</li> <li>☆1 DV相談者の特徴として、住民登録のある市町村の福祉事務所等を相談機関に選ばないケースがあるほか、児童虐待や精神障害等が絡み相談内容が複雑化・多様化する状況にあることから、庁内、関係市町村、関係機関と連携を図りながら被害者支援を進める。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>★ パソコン講座は、再就職や転職などを視野に入れた学び直しの機会という位置づけも念頭に、テーマを需要の多いものに絞り込む、講座ごとのレベルを明確化するなど工夫していく。</li> <li>★ 起業講座に加えて起業を希望する女性と起業した女性の交流を図るイベントを開催する。</li> </ul>	

